

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891500021
法人名	医療法人 中野クリニック
事業所名	グループ・ホーム アンダンテ
所在地	東温市志津川1578-1
自己評価作成日	平成22年9月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・残存能力を維持できるよう、日々の体操・クラブ活動を取り入れて、出来る力の発揮や趣味・歩行練習等を行っている。
 ・地域の方々との交流を大切にし、三味線や舞踊・音楽のボランティアの方々に来てもらったり、季節ごとの行事を実施したりして利用者の方に大変喜ばれている。
 ・病院と隣接しており、医師との連絡が取りやすく、日々の健康面でも看護師がおり、相談が密に出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所の畑で採れた野菜やご近所からいただいた野菜等も使いながら、ホームで食事作りをされている。調査訪問時には、畑から大根葉を採って来られて、菜飯にされたり、春菊やごぼう等も使っておられた。職員は、利用者と同じテーブルで同じ食事をしながら、介助の必要な利用者に料理の内容や味を案内しながらすすめておられた。月に1回、利用者と一緒にどら焼きやおはぎ、柏餅等を手作りして楽しまれている。行事食でオードブル形式にされたり、父の日には、ノンアルコールビールやお刺身、赤飯等も作って皆で楽しまれた。
 入居以前から「隻手薬師」へ毎月お参りされていた方には、入居後も毎月、お参りできるよう職員がお連れしている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループ・ホーム アンダンテ

(ユニット名) 東ユニット

記入者(管理者)

氏名 文野 恵子

評価完了日

平成22年 9月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員が理念を念頭に置いたうえで、利用者の安全を第一に考え、職員間で情報を共有し具体的支援の方法を話し合いながら日々のケアを行っている。 (外部評価) 事業所では「優しく、笑顔のある生活」「安心して、ゆとりのある生活」「個々が役割を持ち、その人らしい生活」を理念に掲げ、朝の申し送り時や職員会議時等に、理念を具体的に実践できるよう話し合われている。地域の方達も見ておられる「アンダンテ便り」には、毎回、法人代表者のあいさつ文を載せておられ、ホームを理解していただけるよう働きかけておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所の行事を通して、地域の方やボランティアの方との交流を深めている。特に花火大会では、ご近所の方を事業所に招待し、利用者の方と一緒に楽しんでいただいている。 (外部評価) 法人代表者が地元に住まわれていることもあって、普段から地域行事や会合に参加されており、事業所自身も地域の情報等も得やすく、地域の盆踊りに参加されたり「どてかぼちゃカーニバル」には、利用者が栽培したかぼちゃを出展された。季刊で発行している「アンダンテ便り」は、東温市社会福祉協議会に置いていたり、運営推進会議のメンバーや知人にも配布されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営者が認知症の専門家であるため、地域住民の要請に応じてアドバイスをしている。地域住民や各母体からのホームの見学を積極的に受け入れ、啓発に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 実践報告・課題や改善点についての協議・情報収集な ど、グループホームの地域への貢献について率直な意 見交換を行い、サービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 会議には、法人代表者や法人の理事も出席されてお り、参加者からの意見等を聞いておられる。昨年、避 難訓練を行った際には、会議メンバーの方にも見学し ていただき「出火もとの確認や天候と風向きにも注意 して消火活動を行わないといけませんね」と感想をい ただいたり、又「連絡網はどうなっていますか」と質 問もあり、いざという時の事業所の連絡の手段や体制 についての詳細を報告された。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護相談員の訪問や、推進会議にてホームとしての取 り組みを伝えると共に、情報交換を行い協力関係を構 築している。</p> <p>(外部評価) 地域包括センターの方に運営推進会議に参加してして いただき、避難訓練の様子を見学された際には「落ち 着いて対応されてました。いざという時も動揺しない ことが大事ですね」と感想やアドバイスをいただい た。月1回、2名の介護相談員の方を受け入れておら れ、年2回、市社協で介護相談員や事業所職員が集ま り、問題点やお互いの希望等を話し合っておられる。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束についてのマニュアルを作成し、指針のもと に職員会や東西ユニット会議で話題にし、院長指導に よる職員への教育を徹底し、身体拘束をしないケアに 取り組んでいる。また、所在確認を十分に行い施錠は していない。</p> <p>(外部評価) 内部研修を行ったり、医師である法人代表者が講師で 「壁側にベッドをつけて、自由に降りれないようにし ている」「食事のときのエプロンのかけ方」等、事業 所の事例を用いて「拘束について」勉強会を行ってお られる。又、職員同士で点検し合っ、拘束のないケ アが実践できるよう努めておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 普段から職員間で話し合い、月に一度はユニット内での話し合いを行うことで、未然に防いでいる。入浴時の全身観察することで、異常がないかを確認している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を開催し活用出来るよう努力しているが、今後も理解と活用について職員間の研修を強化してゆきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前に利用予定者の面談等・情報収集・家族様のホーム見学を実施した上で家族様とも丁寧に話し合い、十分な理解納得を頂き契約を締結することとしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の方とは、日々の生活の中から不満や思いを聞き、改善できるように努めている。また、ご家族の方とは面会時に現状報告を行い、ご家族の希望を聞き、反映できるように努めている。 (外部評価) ご家族の来訪時に利用者の生活の様子を伝えて、ご家族から意見や要望を聞いておられる。夕涼み会、お花見等は、ご家族にも案内して参加いただけるように働き掛けておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一度のウイング会・職員会議で意見交換が出来る環境を設けている。	
			(外部評価) 「委員会」を設けておられ、職員個々に所属して取り組みをすすめておられる。委員会からの提案で、嚙下体操について勉強会を行い、毎食前に体操を採り入れるようにされた。「職員会」の前には、ユニットそれぞれに、職員が意見や気付きを出し合い、それらを法人代表者も出席する職員会時に話し合うようにされている。「車椅子の点検を行ってはどうか」との職員の意見があり、代表者が業者に連絡してくれ、安全点検を行われたり、生ごみの処理のコンポストを購入された。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員は個々に個別目標を作成し、職員は振り返りを行うことでステップアップをし、代表者は職員の振り返りを見ることで、職員一人一人を把握している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に一度の勉強会をはじめ、外部研修については、経験に応じた研修に参加できるように配慮している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 月に一度の地域で行う介護ネットに参加し、情報交換・勉強会を行うと共に、職員にもその情報を伝えている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に事前面談を行うことで、ご本人の希望や要望を聞き取り、安心して生活出来るように配慮している。アスマットの活用で、職員全員が事前に情報を共有している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事前の相談及び契約説明時に、利用者の生活と不安な事・疑問・要望についても話し合い、家族様が十分理解納得された上での契約を結んでいる。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所前の事前面談にて、ご本人・ご家族様の希望を聞きながら「何が必要であるか」を導き出し、安心してサービスを提供できるよう情報交換し、また情報の共有をし適切な支援に努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の方を人生の先輩として、また、家族の一人として接している。利用者の方の能力に応じた役割を持っていただき、職員が寄り添い、共に支えあう関係作りに努めている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>行事などへの参加を促しながら、ご家族の方が来所出来る環境を設け、来所時には日々の生活状況をお話している。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所前からの病院への受診の継続や、友人の面会が出来る環境作りに気を付けている。また、外出・外泊時にご要望があれば、送迎の支援も行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の職場の同僚だった方が訪ねて来てくださったり、編み物のお弟子さんが来られることもある。職員はお茶をお出しして、ゆっくりしていただけるよう声をかけておられる。入居以前から「隻手薬師」へ毎月お参りされていた方には、入居後も毎月、お参りできるよう職員がお連れしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーション等では、職員が利用者間の橋渡しをし、円滑にコミュニケーションが取れるように気を付けている。また、職員が入り会話が弾んだり、雰囲気作りなどの支援も実施している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 仲良くなった利用者の方への面会があったり、推進会議のメンバーとして運営会議にも助言をいただいている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活でのかかわりの中から、本人の思いや希望を聞き取り、その人の思いを汲み取るように努めている。また、ご家族の方からも情報を得ている。	
			(外部評価) 内部研修で「認知症について」の勉強を行い、職員は利用者個々の思いの大切さを学ばれ、普段の利用者の言葉等に、しっかりと耳を傾けるようにされている。ご家族の来訪時には、以前の様子や好まれること等を聞き取って、ケアに採り入れるようにされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前の面談や、ご家族の方・ケアマネ等から情報を得ている。その情報はPCシステムにて、職員全員が把握できるよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その日の心身状態に合わせて対応しており、現状理解や有する力を把握して、残存機能が有効に活用できるよう申し送りやウイング会で適切な支援の方法を話し合い、実践に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			担当者・計画作成者・看護師等での介護計画の見直し・ケアパス・モニタリングなどを実施し、利用者の方の希望や思いを取り入れて介護計画の作成に努めている。	
			(外部評価)	
			利用者の日々の様子や困っていること等を職員で話し合い、ご家族等に介護や生活についての要望をお聞きして介護計画を作成されている。計画は、モニタリングを行い、3ヵ月ごとに見直しをされている。	利用者個々がその人らしく暮らしていくためにも、ご本人の思いや意向を介護計画に十分採り入れていかれてほしい。事業所の理念にも沿った支援を目指して、利用者一人ひとりの特徴のある計画の作成に取り組みれてみてはどうか。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の記録を残し、異常や変化があれば詳しく記録するとともに、申し送り(ノート)にて報告し全職員が情報を共有し、実践に生かし介護計画の見直しにも役立てている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			その日の体調やその時の感情により、状況は変化していくため、それぞれに対応できるようスタッフそれぞれの持ち味を生かし、その都度多方向からアプローチしている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域のボランティアの方の協力のもと、生け花やパステル画等を定期的に行っている。利用者の方の生活が楽しいものになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 母体となるクリニックでの受診をしているが、必要であれば専門医の受診を行っている。また、入所前からのかかりつけ医などの受診は、ご本人・ご家族の希望があれば、そのまま継続して行い、送迎等配慮している。</p> <p>(外部評価) 母体法人の病院長が、週に1回往診に来てくれるようになっており、又、昼食を利用者と一緒に食べるようになっている。利用者は、院長が来ることを楽しみにされているようだ。いつでも看護師に相談できるようになっており、受診も受けられるようになっている。以前からのかかりつけ医へ受診する場合は、ご家族が付き添っておられるが、職員も同行することもある。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 異常が見られた場合はすぐに看護師に報告し、院長の指示にて受診したり処置をしたりと、適切な受診や看護を受けられるようにしている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 管理者や担当者が再々病院を見舞うと共に、運営者である院長等が入院先の関係者と情報交換し、円滑な治療やネットワーク作りに努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 終末期を迎える方には、院長や管理者などがご本人・ご家族の希望を伺い、安心して生活していただけるよう全職員に徹底させ、支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期のあり方や支援については、入居時、ご本人ご家族の意向を聞くようにされており「最期までお願いしたい」と希望されるご家族が多いようだ。意向を職員で共有し、ご本人が重度化された場合は、ご家族には院長が直接病状を説明し、職員も交えて今後の支援について話し合われている。。以前から希望されていた「お墓参り」に、ご家族や職員も一緒に出かけられ、そのあと、1ヶ月後に亡くなられ方もあるが、お墓参りができたことをご本人もご家族もとても喜ばれたようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変・事故等のマニュアルを作成し適切な対応が出来るよう研修している。また、医師へ連絡することで、適切な対応が取れるようにしている。事故対策委員会では原因の究明・改善点を明らかにし、職員会議でも周知徹底をし再発防止に努めることとしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災や地震を想定して年に二回、避難訓練を行っている。近隣の方や推進会の方々にご案内し、訓練に参加して頂いており、地域との協力体制も出来つつある。その都度消防署の職員からの適切なアドバイスを頂いている。	
			(外部評価) 年2回消防署の協力を得て、避難訓練を利用者も参加して実施されている。地震を想定した避難訓練を行った際には「帽子が必要だが、かぶり忘れた」等の反省点もあったようだ。3月に実施した避難訓練時には、近所の方や運営推進会議のメンバーの方達にも参加していただき、利用者がホーム外に避難した際の見守りをお願いされた。	職員は、年2回の避難訓練以外にも「ホームで自主的に避難訓練を行う」ことを考えておられた。利用者の状態変化に応じ、又、時間帯や場面等、想定を変えながら訓練を重ねていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様は人生の大先輩であることを認識し、常に利用者の立場に立った支援を職員間で考え、戒めあう組織作りに努めている。	
			(外部評価) 職員同士で言葉遣い等気になる点は伝え合ったり、共用空間で利用者の個人の情報について職員同士で話す際には、個人名を出さないように気を付けておられる。昼食時、職員は利用者が残しておられるお皿を指して「まだ残ってますよ。食べておきますか」と、強制することなく、ご本人にすすめておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴や声掛けにより、利用者の思いや願いの把握に努めスタッフで話し合い、希望が実現できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の方の生活のリズムを把握し、出来るだけご本人の希望がかなえられるよう工夫したり、楽しみや活動が増え充実した生活につながるよう支援を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣の際、自分で服を選べるよう支援している。また、男性は理容・女性は美容の訪問サービスを受けたり、身だしなみについては利用者と相談しながら支援を行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ホームで収穫した野菜や地域の方から頂く農産物など、食材の地産地消に努め、ご利用者になじみのある食べ物、調理も工夫している。出来る方には食事の下準備・盛り付け等のお手伝いをして貰っている。下膳は、出来る方をお願いしている。	
			(外部評価) 事業所の畑で採れた野菜やご近所からいただいた野菜等も用いながら、ホームで食事作りをされている。調査訪問時には、畑から大根葉を採って来られて、菜飯にされたり、春菊やごぼう等も使っておられた。職員は、利用者と同じテーブルで同じ食事をしながら、介助の必要な利用者に料理の内容や味を案内しながらすすめておられた。月に1回、利用者と一緒にどら焼きやおはぎ、柏餅等を手作りして楽しまれている。行事食でオードブル形式にされたり、父の日には、ノンアルコールビールやお刺身、赤飯等も作って皆で楽しまれた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、食事量をチェックすると共に、水分摂取に介助を要する方は、不足しないよう水分摂取量に気を付け、栄養のバランスや量、体重や排泄などにも配慮しながら支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを実施している。特に夕食後は義歯の洗浄や液体の洗浄剤による口腔内の洗浄、歯磨き粉が苦手な方には子供用の歯磨き粉を使うなど、個々に合わせての支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表をもとに、一人一人の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るように支援している。 (外部評価) 排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握して、職員は声かけや誘導にてトイレで排泄できるよう支援されている。夜間は、利用者の状態や希望等を踏まえて居室にポータブルトイレを置き、使用されている方もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝、牛乳を飲んで頂いたり、食材にも繊維質の多いものを多用している。散歩や午前・午後の体操も実施している。それでも便秘がちな方については、運営者である病院長に相談し内服薬等に対応することもある。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 介助を要する方、特に2名介助を要する方については、安全に配慮し、安心して心地よく入浴できるよう配慮している。介助を要しない方については、希望を伺い、時間を設定している。 (外部評価) 夜間に入浴されていた方もあったが、気の合う方が午後に入浴されることもあって、ご本人も午後入浴にされたようだ。畑で農作業をされた後、シャワーを浴びる方もある。毎日入浴される方や入浴を嫌う方も週に2回は入ることができるよう声かけやタイミングを見て支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日の体調や状況に合わせて、日中でも声掛けして居室で休んで頂いている方もおられる。就寝に向けて排泄や口腔ケア・更衣介助をして、安心して心地良い眠りに入れるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬が新しく処方、または変更になった場合は、特に症状の変化に気を付け、場合によっては看護師に連絡し指示を仰いでいる。間違いがないよう、個別に薬ファイルで確認し、服薬の支援を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る事を見つけ、生活に張り合いや喜び・生きがいを持って能力が発揮できるような活動を工夫し、楽しく過ごして頂けるような支援をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に一度の近所の馴染みの神社へのお参りに行けるように支援している。また近隣へのドライブ、各催し物への参加を増やしている。	
			(外部評価) 敷地内の整備された遊歩道を散歩されたり、水曜日は「買い物の日」と決めてあり、近くのスーパーへ食材等の買い物に行かれています。坊っちゃん劇場に出かけてミュージカルを観劇されたり、旧花きセンターの「花まつり」に出かけて楽しまれている	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が出来る方については所持していただき、必要に応じて使っていただいている。出張サービスの料金など、本人が支払う方もいる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持たれている利用者の方もおり、必要なときに家族などに電話をしている。職員の手助けにより、手紙のやり取りをしている利用者の方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>毎日の清掃・観察により清潔な環境づくりに努めると共に、危険となる要因を取り除いている。また季節を感じて頂くように、花や装飾品、利用者の方が共同制作したちぎり絵などの作品を展示している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2つのユニット間は、自由に行き来ができるようになっており、中間にレクリエーションルームがある。レクリエーションルームには、利用者が作ったトンボや十五夜とウサギ、菊の花、ススキ等の貼り絵作品が飾られていた。玄関前のスペースにベンチが設置されており、天気の良い日には日向ぼっこされる。居間のソファに座ってテレビを見ておられる方もあった。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用空間ではテーブルやイスの配置などを工夫し、屋外にはベンチを置くことで、屋内外の好きな所にて自由にそのときの気分で過ごすことが出来るようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>今まで使ってきた家具や観葉植物を置いている方もおり、その人らしい個性のある居心地の良い居室になってきている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>お若い時、趣味で作った木彫りの人形や家族の写真を飾っておられる方、利用者が色塗りしたカレンダーや月1回の「生け花クラブ」で生けた花を飾っておられる方もある。ご本人が編みかけているマフラーも見られた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>一人一人が安全に生活する習慣づくりに努めるとともに、さらにお風呂やトイレなど判りやすく表示をしたりして、利用者様が安全に自由に過ごせるよう配慮している。各居室の入り口には、それぞれ利用者の写真を飾ることで、誰の部屋かわかりやすいようにしている。</p>	